

全体ビジョン

自然と共に生きる環境先進都市の
新たな地域モデルをめざして

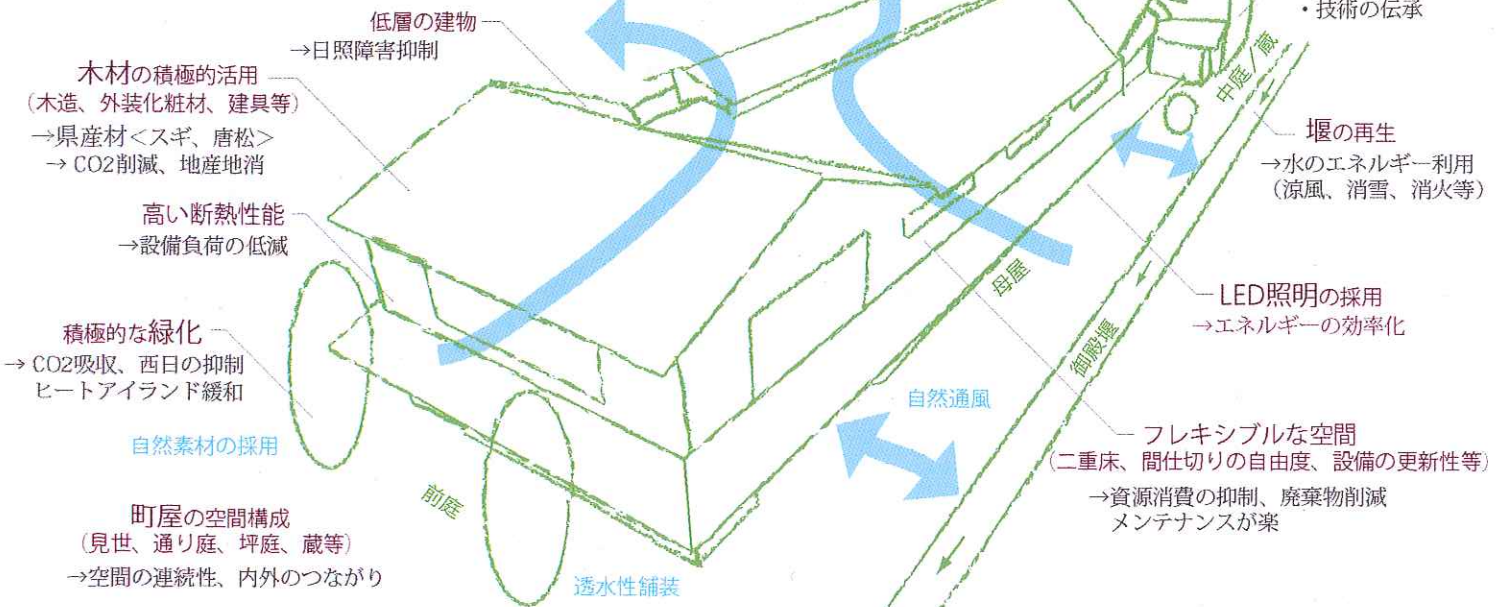
3つの視点

- あるものを活かし、ないものを創る
山形にまだまだ多く残されている歴史や文化の形を注意深く観察し、新たな時代の要求に応えられるよう手を加え、未来へと引き継いでいく。
- 歩いて気持ちのよいまちを創る
環境負荷低減と健康増進の観点から、まちを快適に歩くための一つの道標として、山形五堰を考える。歩行距離圏についても考慮したまちづくりとする。
- 経済と文化の辻を創る
敷地は御殿堰が七日町大通り(R112)と交わる部分であり、山形五堰の中でも最も人通りの多く、その存在を示す随一の「アンテナショップ」となりうる。



設計コンセプト

持続可能な商店街の、持続可能な店舗を創る



七日町御殿堰物語



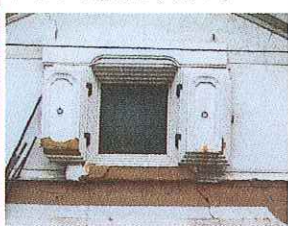
つくられたのは江戸～明治まで遡ると思われる。深さ10m程で水は枯れているが、円筒状の石積みはいまだ健在。上部の高畠石も含めこれらは洗浄し、ガラス越しに覗き込めるように再生する。

▼岩淵家の古井戸



◀ 木造耐火建築物

平成18年より大臣認定を得ている木造軸組工法による耐火建築物。防火地域における木造耐火はこれが東北で初の試みである。まちなかにも再び木造が建てられることは環境にとって意味が大きい。



▲ 岩淵家の二棟の蔵

座敷蔵は明治3年、荷蔵は大正年間の棟上げと伝わる。ともに白い漆喰壁が印象的。敷地北側には隣家の店蔵も残る。これらは内外共改修し、新たなミセとして再生される。



▶ 植栽計画

山形の商人地で庭先に植えられていたものは何だったか。庭園のようなまちを目指して、四季の変化を感じられる草花を取り入れる。

◀ 御殿堰のアカマツ

解体直前の掘建小屋脇にどこからともなく飛んできて芽を出した若松様。某所にて新たな庭への植え替えを待つ。

